17 Creed

福音的
聖書ファンタジー
創作17箇条
信仰と物語を
両立させるために

1 「聖書はファンタジーだ」と主張するための物語は論外

聖書はファンタジーではない。聖書は「神によって創造された世界」を啓示する、人間と神との関係性の記録であり、聖典。世界随一のベストセラー、今も信者を生み出し続けている生きた物語。

2 ファンタジーを成立させるために、福音・教理を曲げてない

読者は、聖書の厳格な原則にファンタジー作家が魂を賭けて挑む（しばしば滑る）オリンピックが見たい。人間こそが神の創造の冠なので、ドワーフとかエルフは聖書のスコープ外。

3 主要な登場人物が、「神のいる・いない」に悩んでない

創世記には「はじめに神が世界を創造された」とある。「聖書の世界線に生きる人々の生きざまとは？」を偏執的なまでに追及する思想実験であるべきで、神の存在意義がぐらつくことなどありえない。

4 聖書内のモチーフをふんだんに使ったファンタジーである

冷蔵庫に入ってる食材だけでどんな料理が繰り出されるのかを見たい。つまり聖書的キーワード、名前、概念、人格、土地、植物、祭儀、風俗、生活、名前、あらゆるところに聖書の気配を滑り込ませてほしい。

5 使用される聖書モチーフに、神学的意味が備わっている

聖書ワードをただ繰り出してくるだけではなく、聖書ではどういう扱いかをしっかり踏まえてほしい。例えば「使徒」は 12 使徒で固定なので、新使徒を名乗るキャラは出てこなくていい。

6 一定の分量で聖書エピソードのメタファーがある

たとえば長い間不通になっていた家族との再会が「放蕩息子のたとえ」のメタファーだとか。難易度も王道からマニアックまで取り揃え、思わずニヤリとしてしまうような仕掛けが随所にほしい。

7 悪の描写にも聖書的根拠がある

名前が「サタン」の派生語で性格は多少ひねくれさせておけ、みたいな雑なヴィランは言語道断。創世記と福音書、イザヤ、黙示録、コリントあたりを押さえ、「悪の設計」にも神学的根拠と作家の妄想のせめぎあいを見せてくれたまえ。

8 神は登場してもいいが、注意深い描写である

「髭が長い爺さん」でお茶を濁さず、主の栄光の描写への努力を惜しまないこと。摂理の御手をたびたび登場させつつ、デウスエキスマキナに終わらせないこと。かつ、「神の沈黙」や「神の機能不全」にも逃げないこと。個人的鬱憤を神やキリストに代弁させないこと。

9 「聖書に書かれているモチーフ」と「教会時代に作られたモチーフ」は、厳密に区別する

カトリックの絢爛豪華なモチーフを安易に適用してファンタジーした気持ちにならないこと。ゴシック建築、薔薇窓、教皇、エクソシストを思慮もなく登場させないこと。「物語が地味になる」と言いたい奴は聖書もう一周。

10 悪を悪として描き、倒錯させない

悪の設計にこだわるあまり、「悪魔とか裏切り者のユダが実は不憫」というヒューマニズムの二番煎じは慎むこと。ダメなものはダメ。ただし、原罪に抗えない人間模様に共感を掻き立てる描写は考慮の余地あり。

11 説教くさくない

「聖書は道徳の教科書で、劣化し続ける焼き直しコンテンツが聖書ファンタジー」という意見と、神の栄光にかけて戦おうではないか。「悪の描写」に成功すれば、読者は勝手に善を擁護しはじめる。そのラインを狙おう。

12 極端なヒューマニズムに傾倒していない

「神の主権と人間の自由意志の緊張状態」に対する悲観が押さえられているか、笑い飛ばすくらいの楽観に振り切っていること。

13 キャラクター造形がステレオタイプじゃない

教会での伝統的理想像をキャラクター設計に安易に適用しないこと。「男性＝責任感」「女性＝謙遜」みたいな単純な美徳を物語の暴力を借りて成立させないこと。倫理感も聖書内の「理想と実例描写」のドライさを考慮すること。

14 読者が物語の中に居場所を見つけられる

信者・未信者の想定読者を考慮すること。主人公が聖人君子だと、「その水準に届いてない」と傷つく。かといって堕落しすぎても夢がない。救われててもダサいし悩むし滑る。でもきらりと光る何かがある。さじ加減が重要だ。

15 福音を守りつつ「そういう考え方があったか！」と驚く視点の切り替えができる

生半可に聖書ワードをちりばめておけば意味深なファンタジーになると思っている聖書アマチュアたちが、のたうち回って夜も眠れぬほど嫉妬する黙示の鉄槌を、ストーリーの力で振り落としてやろうではないか。

16 面白くなければ意味がない

なぜファンタジーが好きか、思い出していただきたい。第一には「楽しませてもらったから」じゃないだろうか。作り手として「読者を楽しませる」ことは義務だ。正しさ 100 点でも、面白さ 5 点では魂に届かない。作家が独りよがりから脱皮したとき、創作は生きた礼拝となる。

17 笑える

敬虔な信者は、聖書を「笑う」ことを恐れる。未信者は、「笑えない信者」を嗤う。聖書ファンタジーはまだ未踏の領域がある。「圧倒」「驚嘆」そして、爆笑。神の栄光が、恐れや欺瞞から何の影響もない高みから、ビッグスマイルを送っておられることを暴きたい。物語の力で。

Wry Wonders

あなたの物語が、この 17 箇条を更新する 18 番目になりますように。Let there be wonder